

# 会報

2021.7



# 大阪城を建てたのは誰？



## 芝野 弘之

(昭和44年卒)

私は当時あまり人気が無かった土木計画を専攻し、昭和44年(1969年)学部卒業、昭和46年(1971年)修士を終了しました。

その後大阪市に就職し、34年間勤務した後、平成17年(2005年)に退職しました。今年には後期高齢者となります。

大阪市では、土木局(現在の建設局)交通安全施設課に配属され、いきなり国鉄大阪駅東口と阪急百貨店の北側とを繋ぐ横断歩道橋の設計等を担当しました。この歩道橋は昭和48年(1973年)11月に完成しています。

当時では横断歩道橋の完成後、平面の横断歩道が撤去されるのですが、残念ながら公安委員会は、一部世論の反対で横断歩道を残しました。そのため、歩道橋の利用者は極めて少ないものになりました。最近この横断歩道がテレビのコロナ報道で大阪の人出を見せるのに必ず写っています。

歩道橋の仕事は、学生時代構造力学等が大の苦手で卒業した私ですので、正直言って「嫌な仕事を拝命したな」と思っておりました。しかしながら、設計担当といっても歩道橋の構造計算、デザインなどは殆どコンサルタントが行い、実施設計は前任者の段階で終わっており、実際の仕事は、関係機関との協議や、工事費の積算などが主な業務内容でした。そのような中で、まだ何も解らないまま、様々な人達からの指導や協力を得て、なんとか完成させることが出来ました。

当時は気づかなかったのですが、どんな事業でも、多くの人達が関わっていたことが後になってよくわかるようになりました。

自治体等が行う土木事業に関わる人達を例にとってみると、まず企画段階では、現地の調査をし、費用対効果を考え、予算を算定し要望する者など様々な人

が関わってきます。次に設計段階では、比較設計から始まり詳細設計にいたるまで、実際の構造計算、図面作成の実作業とチェックする者、関係者と協議する者などが存在します。さらに事業の発注では工事費の積算、入札契約にも技術者以外の者が関係し、工事の施工にあたっては、工事関係者との協議や、実際の工事を作業する様々な職種の人々や彼らをまとめる現場監督者など多くの人々が存在するのです。

さらに事業完了後においても、その維持管理はその構造物が存在する限り永年に渡って必要となり、それにも沢山の人が関わって来るのです。

このように土木建設事業に取り組んだとき、そこには、土木技術者以外にも様々な多くの人々が関わっており、個々人がそれぞれのパートを受け持って、与えられた仕事をこなし、総合的に一つの構造物が完成するものだと思います。このことは何も土木事業だけには限らずどんな仕事においても当てはまることです。また、大規模な事業になればなるほど『これは自分が関わった構造物(事業)だ』と思う人達がたくさんいると思います。そして、苦勞して困難な仕事を乗り越えて構造物(事業)が完成したものほど、より充実した達成感があるものです。

大阪市勤務の34年間、様々な事業に関わって、色々な思い出がありますが、最初に担当した事業が深く印象に残っており、所謂、地図に残る仕事に携われたことを誇りに思っています。

表題の「大阪城を建てたのは誰？」ですが、学校で先生が生徒に質問したものです。ある生徒が『大阪城は大工さんが建てました』と答えました。私はこの生徒の答えも正しいと思います。

## 都市学科の近況

2021 (令和3) 年度学科主任

鍋島 美奈子



### はじめに

2021年度、初めて都市学科主任を務めている鍋島です。都市会会員の皆様には、平素から学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

昨年度は前期 Semester、後期 Semester とともに一部の演習・実験科目を除き講義科目は遠隔授業となりましたが、これまで大学の講義でのクラスター発生事例などは確認されていなかったこともあり、2021年4月8日から始まった前期 Semester では、全面的に対面授業が再開されました。教室の定員は 1/2 から 2/3 までに抑え、QR コードで誰がどこの教室のどの席に座ったかを記録できるシステムが導入されるなど、可能な限り対策を施し、無事新年度のスタートができました。キャンパスには活気が戻り、ようやく大学らしい雰囲気になったと思った矢先に、大阪府下に緊急事態宣言が発令され、またしても遠隔スタイルに逆戻りになりました。しかしながら、昨年と比べると、教員も学生も経験値が上がったおかげで、かなりスムーズに対面から遠隔への移行ができたのではないかと思います。緊急事態宣言中はキャンパスに来ることができなくなってしまいましたが、昨年度と違い、今年度は基本的に対面授業を実施することが決まっているので、宣言が解除次第、通常に対面スタイルに戻れると思います。

さて、今年3月には都市学科9期生50名が卒業、大学院前期博士課程27名が修了しましたが、このような状況のため、大学全体の卒業式・修了式は中止になり、授与式のみ短時間で開催しました。一方、4月には54名(うち女子学生5名)の新入生を迎えることができ、昨年度は中止になった入学式も今年は無事に開催することができました。近年、都市学科の女子学生比率は多い学年で2割程度まで上昇してきていましたが、残念ながら今年は女子学生比率が低く、1割程度となりました。原因はよくわかりませんが、工学部全体でも女子学生比率が低かったようです。4月1日に実施した新入生ガイダンスでは、集合写真の撮影をし、学生同士で連絡先の交換をするなど、普通の

大学生らしい体験をしてもらえて安堵しました。今は我慢の時ですが、早く通常通りキャンパスで対面授業ができるように、皆で力を合わせてこの状況を乗り越えたいです。

### 卒業生・修了生の進路の概要

2020年度学部卒業生51名(9月卒業の1名を含む)の進路は、約63%の32名が大学院前期博士課程に進学し(内1名は他大学)、残りの約37%の19名が社会人となりました。就職先は、公務員が8名(京都府1、奈良県2、大阪市3、京都市1、吹田市1)、民間会社が11名(橋梁1、コンサル3、インフラ系2、その他5)です。同じく2020年度大学院前期博士課程修了生27名のうち、本学大学院後期博士課程への進学が2名、残り25名の就職先は、公務員が0名、民間企業25名(ゼネコン2、橋梁3、プラント2、コンサル6、インフラ系3、メーカー4、不動産1、設計事務所1、商社2)となりました。最近では、従来から人気のゼネコン、インフラ系やコンサルタントだけでなく、プラントや環境設備機器メーカーなど幅広い業種に就職しているのが特徴です。都市会会員の皆様には、後輩を温かな目で見守り、サポートいただければ幸いです。

### 博士(工学)の授与者

大学院の後期博士課程(都市学講座)では、2020年度は以下の3名の方が博士(工学)の学位を授与されました。

- ・2020年9月:松本崇志氏(主査:山口教授)「既設鋼合成桁橋のリニューアルのための構造変更および主桁断面補強設計に関する研究」
- ・2021年3月:杉本悠真氏(主査:山口教授)「Study on Design of High Strength Bolted Flush End Plate Connections for Bridge Structures (橋梁構造物のための非突出型エンドプレート接合の設計法に関する研究)」
- ・有村健太郎氏(主査:山口教授)「腐食劣化の生じた鋼I桁橋の橋梁システム冗長性を考慮した合理的な耐荷性能評価手法に関する研究」

### 学生の活動・受賞など(2020年都市学科ニュースより)

- 都市学科4回生の古川桃子アンナさんが都市学科最優秀学生賞、福辻菜絵さん、吉岡志穂さん、多田寛脩さんが2020年度都市学科優秀学生賞を受賞(2021年3月24日)

- 都市学科卒業研究評価会の優秀発表賞は、古川桃子アナさん（環境水域工学研究室）、谷碧衣さん（都市リサイクル工学研究室）、鳥居駿さん（地域環境計画研究室）、近藤大介さん（構造及びコンクリート工学研究室）、大町佳史さん（環境水域）の 5 名が受賞（2021 年 3 月 24 日）

以下は、主として前期博士課程の学生（2020 年度の学年で表記）の 2020 年 4 月～2021 年 3 月の活動・受賞です。研究発表やコンペの作品応募など多方面へ積極的に活動し、個人やチームとしての成果が高く評価されました。

- 日本都市計画学会関西支部主催の「堺旧港周辺のまちづくりを考える」WS で、都市基盤計画研究室の M1 の西村直峻さんが最優秀賞、M1 の吉川令さん、石井真弘さん、蔡暁敏さん、4 回生の澤田和樹さん、多田寛脩さんが優秀賞を受賞（2020 年 12 月 19 日）
- 都市基盤計画研究室で博士号を取得された福嶋恭正さん（内外エンジニアリング）が、学位論文の一部を構成する発表論文にて、環境技術学会第 22 回論文賞を受賞（2020 年 6 月 27 日）
- 都市基盤計画研究室の卒業生の崎山賢人さん（現：中央復建コンサルタンツ）が、建設コンサルタンツ協会近畿支部第 53 回研究発表会・プレゼンテーション部門において卒業研究の成果を発表し、奨励賞を受賞（2020 年 10 月 1 日）
- 都市計画研究室の田中佑弥さん（M1）、清水うららさん（M1）、吉岡志穂さん（B4）が JR 西日本・大阪市立大学共催「第 2 回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」において「ベストユニーク賞」を受賞。名和滉太さん（M1）、横山圭佑さん（M1）、橋戸真治郎さん（M1）、西上魁人さん（M1）が「特別賞」を受賞（2020 年 12 月 23 日）
- 都市計画研究室の西上魁人さん（M1）・木村優輝さん（M2）が日本建築学会近畿支部都市計画部会主催の「第 11 回アーバン・デザイン甲子園」において「優秀賞」（準優勝）を受賞。名和滉太さん（M1）、魏亜希さん（M1）、木村凌さん（建築計画研究室 M1）、吉田有沙さん（B4）が「入選」（2020 年 12 月 19 日）
- 都市計画研究室の田中佑弥さん（M1）、清水うららさん（M1）、吉岡志穂さん（B4）が「全国建築学生賞 2020 第 1 回コンペティション」において、100 選入賞（2020 年 9 月 1 日）
- 都市リサイクル工学研究室 M1 の直井亮太郎さんが環境技術学会年次大会にて優秀プレゼンテーシ

ョン賞を受賞（2020 年 6 月 27 日）

- 都市リサイクル工学研究室 M1 の山崎耕平さんが環境科学会 2020 年会で優秀発表賞（富士電機賞）を受賞（2020 年 9 月 19 日）
- 都市学科の学生有志で構成する「大阪市立大学環境報告書作成プロジェクト」が作成した大学の環境報告書が公開（2021 年 3 月 30 日）
- 河海工学研究室 M2 の三宅一成さん、M1 の廣田理織子さんが海洋開発シンポジウムの査読付き論文として掲載（2020 年 6 月 25-26 日）
- 河海工学研究室 M1 の山村雄司さん、廣田理織子さんが Zoom で開催された International Conference on Coastal Engineering で口頭発表（2020 年 10 月 6-9 日）
- 河海工学研究室 M1 の山村雄司さんが海岸工学講演会で口頭発表し、査読付き論文として掲載（2020 年 11 月 10-13 日）
- 橋梁工学研究室 D3 郎宇さん、D2 申啓航さん、M2 足立淳一さん、佐倉亮さんが土木学会第 75 回年次学術講演会（オンライン）で優秀賞を受賞（2020 年 9 月 9 日～11 日）
- 橋梁工学研究室 M1 松井駿さんが第 53 回建設コンサルタンツ協会近畿支部研究発表会で研究発表を行い、奨励賞を受賞（2020 年 10 月 1 日）
- 橋梁工学研究室 M2 神野巧矢さん、M1 大浦涼雅さんが IABSE（International Association for Bridge and Structural Engineering）Congress（オンライン）にて研究発表（2021 年 2 月 3～5 日）

### 教員の異動・活動

2020 年 4 月に都市計画研究室の蕭（しょう）講師が准教授に昇任しました。

教員の受賞としては、蕭准教授が大阪市立大学「グローバル人材育成事業」若手研究者奨励賞「恒藤恭記念奨励賞」を受賞しました（2020 年 7 月 30 日）。中條准教授が 2020 年度大阪市立大学・若手教員教育研究活動分野で、鍋島が大阪市立大学教員表彰学長重点事項（国際化）分野で表彰されました（2020 年 11 月 25 日）。橋梁工学研究室卒業生の森山仁志氏（現：熊本大学助教）が第一著者、山口教授が共著者の一人である論文が土木学会田中賞を受賞しました（2020 年 5 月 14 日）。

また、今年度も貫上教授が工学研究科副研究科長兼審議員の重責を担われ、引き続き本学および新大学の工学研究科の学務および管理運営にご尽力いただくことになりました。重松教授と鍋島が 2021 年 4 月よ

り学長特別補佐に任命されました。大島教授が 2020 年度地盤工学会関西支部長に就任しました。

### おわりに

本学の動きとして、2022 年 4 月に新大学「大阪公立大学」が発足し、英語名称は Osaka Metropolitan University となる予定です。都市学科の研究室は 2026 年度をめどに中百舌鳥キャンパスへの引っ越し

が予定されています。愛着のある市大や OCU という名称が使えなくなると思うと残念でありませんが、幸い、都市学科は新大学になっても都市学科として現状の体制で存続します。今後とも、都市会会員の皆様におかれましても都市学科への忌憚のないご指導、ご指導をいただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

## 都市学科近況報告

### 安全防災領域

#### 構造およびコンクリート工学分野

構造及びコンクリート工学分野は相変わらず、鬼頭宏明教授と角掛久雄准教授の 2 名の教員で担当しております。昨年度は少ないですが、前期博士課程 1 名、学部 1 名が社会人として巣立っていきました。また、3 名が大学院に進学したので、今年度の研究室の学生は前期博士課程 6 (3) 名 (M2 : 3 (2) 名、M1 : 3 (1) 名)、4 回生 4 (1) 名の計 10 名 (( ) 内女子学生) となりました。このメンバーでより幅広い研究活動を実施して行く所存であります。

研究活動としては、複合構造、コンクリートの補修・補強、維持管理を対象に実施しておりますが、コンクリート材料分野にも少し手を出し始めています。

卒業研究や修士論文以外にも卒業生の関連企業を始め、製品開発にも関わる様々な受託研究も行っており、微力な教員に代わって特に大学院生は様々な研究活動に携わりながら研究室を盛り上げてくれています。ただし、このコロナ禍のため、遊びはほぼ出来ず、研究室としての親睦には苦勞しております。

授業および研究における実験に関しては、当然ながら、常にマスク着用でかつ少人数が原則で、かつ衛生面には特に気を使いながらであったため、夏場は冷房の無い実験室で学生は苦勞しながらも奮闘していました。今年度も学生には苦勞を掛けることになりそうです。

また、昨年度の教育活動の一環としての現場等の見学は、コロナ禍のため、ほぼ出来ずじまいでした。さらに学会発表での出張も無く、学生にとっても様々な

情報を得る機会（旅行も含めて楽しむ場）を失い、リモート対応の技術だけが特に向上した 1 年であったかと思えます。唯一、近場ですが京都の南禅寺にある水路閣の見学だけをしました。見学に伴い、企業の方にご迷惑をかけず、見学しやすく歴史ある橋梁という事で選定しました。難しいかもしれませんが、夏・秋以降に今年は気兼ねなく、現場見学など学生に有意義な行動が出来ることを期待しています。

新型コロナの蔓延に伴い、卒業生のみならず企業の方とも直接会う機会もめっきり少なくなり、学生だけでなく教員にとっても十分な情報交換が出来ておりません。研究室として今年度もどこまで学外での活動が出来るのか不明なスタートを切っております。その中でも多くの学生が活躍してくれるよう、研究室として頑張っけてゆきます。

昨年度の会報と同じ締めになりますが、新型コロナの蔓延が終息に向かうことともに、皆様方のこの 1 年の無事を願います。



密を気にしながらのコンクリート実験授業



南禅寺水路閣にて

## 応用構造工学分野

応用構造工学研究室/橋梁工学研究室の 2021 年度の研究室の構成は、教員 2 名、特任教授 1 名、客員教授 2 名、秘書 1 名、日本学術振興会特別研究員 1 名、博士課程 5 名（内、社会人 1 名）、修士課程 12 人、学部生 6 名、研究生 2 名（留学生）の 32 名となりました。ここ数年は、実務経験を持つ博士課程の社会人の方々と、実務と研究の両面から実構造物の問題解決に取り組むことができる体制となっています。昨年度と同様、**COVID-19** の感染拡大防止の観点からオンラインで研究室ガイダンスを行い（写真 1）、2021 年度の活動のスタートを切りました。

2020 年度は、**COVID-19** の影響により、研究室での研究活動に制約をかなり受けましたが、オンライン会議、オンライン発表会などを活用し、なんとか例年並みの研究活動を展開することができました。

大阪府南部の市町村とインフラ構造物の維持管理に取り組む“泉北及び泉南地域維持管理連携プラットフォーム”、大阪市建設局橋梁課との“大阪市橋梁技術交流会”などの社会貢献活動はオンラインで継続しました。

“ジャパンスティールブリッジコンペティション”は大会規模が縮小され、オンライン参加も可能となり、2021 年 3 月に福井大学で開催されました。当研究室からは構造およびコンクリート研究室と共同で参加し、福井大学に乗り込みました（写真 2）。

現場見学を目的とした学内公認サークル“ぶら土木”などの現場見学活動も回数は減りましたが、関係各位のご協力のもと実施しました。湯浅御坊道路の送出し架設工事、吉野川大橋の送出し架設等の研究室内では

体験できない、「現場」の一端を体験しました。（写真 3）。

関係する国際会議も現地で開催されず、すべてオンラインとなりました。例年参加している国際構造工学会（IABSE）の会議は、2021 年 2 月にオンラインで開催され、2 名の学生が発表しました。

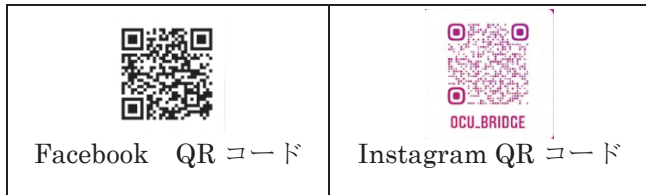
研究室の具体的な研究テーマは、研究室ウェブページの「研究ポスター」（<http://brdg.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/index.html>）にて紹介しています。社会情勢を反映し、橋梁点検システムの構築、部材の現場取換え工法、合成桁の床版取換え工法、鋼床版の下面補強工法、接合部および当て板補修部材の耐荷力評価などがテーマとなっています。



写真 1 研究室ガイダンス（2021 年 4 月）

写真 2 Japan Steel Bridge Competition 2020  
（福井大学にて、2021 年 3 月）写真 3 ぶら土木 湯浅御坊道路送出し架設  
（2020 年 6 月）

研究室の近況は、フェイスブックとインスタグラムにて随時、発信しています。こちらをご覧ください。



最後になりますが、同窓生の皆様のご健康とご活躍を心からお祈りするとともに、研究室の教育・研究活動に引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 地盤工学分野

2020年度の地盤工学研究分野の構成は、大島昭彦教授と山田卓准教授の2名の教員、大学院後期博士課程3名(D3:2名、D1:1名、いずれも社会人)、前期博士課程8名(M2:3名、M1:5名)、4回生6名および主任研付き秘書1名の計20名でした。

2020年度の出来事として、先ず第1に三笠正人先生のご逝去(令和2年6月17日、享年97歳)があげられます。三笠先生は昭和27年に本学に来られ(当時は土質工学研究室、略称土質研)、昭和62年までの実に35年間にわたり、教育・研究に当たられました。三笠先生から薫陶を受けた多くの卒業生の方々には「三笠ism」が強く生き続けていると思います。コロナが収まれば、「三笠先生を偲ぶ会」を企画したいと思っていますので、しばらくお待ち下さい。なお、三笠先生に関する詳細は別途追悼文が本会報に掲載されますので、そちらをご参照下さい。

さて、2020年度は何とんでも新型コロナウイルス感染の年でした(現在も続いています)。これによって研究室の活動も制限され、昨年6月までは教員および学生は研究室に出ることもできず、原則自宅待機でした。その後、何とかゼミはオンラインで実施し、徐々に研究活動が前に進みました。ただし、地盤研ではここ10年ほどは毎年、最低3箇所(大阪近辺および遠方)で2週間程度の地盤調査一斉試験をノルマにしていたのですが、昨年度は1箇所しかできませんでした(ただし、遠方を含めて3箇所数日の再調査は実施)。また、遠方での地盤調査の後には、研究室全員でゼミ旅行に出かけていましたが、昨年度はそれも取りやめとなりました。

ここで、教員個人のことを記載しますと、私(大島)

は2020年度の学科主任を務めました。因みにこの10年間で3回目の主任でした。来年度からの新大学の準備もあり、コロナ禍の中、結構忙しい日々でした。また、2020年度の地盤工学会関西支部支部長を1年間、2018年度からは地盤品質判定士会関西支部長、地下水・地盤環境に関する協議会の座長も継続して務めています。大学人として定年が近づいてくるといろいろな役職が回ってくるようです。山田准教授は研究・教育を重点的に行っているようです。

さて、地盤研の教育内容を簡単に紹介しますと、学部では、基礎科目として土質力学Ⅰ・同演習(2回生前期)、土質力学Ⅱ(2回生後期)、応用科目として地盤基礎工学(3回生前期)、地圏環境工学(3回生後期)、地盤防災工学(3回生後期)、土質実験(4回生前期)を提供しています。大学院では、地盤工学特論(土のせん断試験論、液状化予測、宅地の基礎工法)と地盤防災工学特論(斜面防災と地震防災)の2つの講義科目と2つの特別演習(一次元圧密解析、地盤地震応答解析)を提供しています。

最後に、現在地盤研で実施している研究内容を以下に示します。

- ① 関西圏の地盤特性の検討
  - ・地盤情報データベースと基準地盤調査に基づく「250mメッシュ浅層地盤モデル」の構築
  - ・上記モデルのWeb上での公開(関西圏地盤情報ライブラリ)
- ② 地盤調査方法の高精度化の検討
  - ・大型動的コーン貫入試験の貫入機構の検討、周面摩擦力の測定と打撃回数の補正方法の提案
  - ・スクリーウエイト貫入試験結果とN値、su値との相関式の提案
  - ・サウンディング時の音測定による土質判定の開発
- ③ 地下水・地盤環境の検討
  - ・地下水位低下による地盤沈下と液状化対策効果の予測(浅層地盤モデルの応用)
  - ・帯水層蓄熱利用システムによる地盤沈下の予測
  - ・プラスチック廃材の地盤材料としての有効利用に関する研究
- ④ 地盤防災の検討
  - ・地震応答解析による揺れやすさと液状化危険度の予測(浅層地盤モデルの応用)
  - ・遠心模型実験による経済的な宅地の液状化対策工法の開発
- ⑤ 夢洲の短期・長期的な沈下の検討

- ・夢洲 2 区（万博会場）の短期的な沈下予測
- ・夢洲全体の地盤性状と長期的な沈下予測



2021 年 3 月 24 日卒業式時の実験室での集合写真

## 河海工学分野

河海工学研究室は、重松先生と中條の教員 2 名体制で、都市学科の教育・研究に取り組んでいます。実験指導を始め、研究支援課の小池敏也技術職員にもいつもお世話になっております。また秘書の杉浦様、麓様にもお力添えいただいております。ありがとうございます。

2021 年度の河海工学研究室は、修士 2 年生 3 名、修士 1 年生 7 名、学部 4 年生 5 名に、客員教授 1 名と客員研究員 1 名の 13 名体制で、研究に望んでおります。修士 1 年生のニコラス・エコ・サプトラ君はインドネシアの出身で、大阪産業大学の水谷夏樹先生の研究室から本研究室に進学していただきました。新しいメンバーを加えて、研究全体で楽しく学べる雰囲気を作ってもらえればと思います。

本研究室は、教育面では、全学提供の「コミュニティ防災」などの科目の一端を担い、専門科目では「都市工学のための力学・数学基礎」、「プログラミング演習」、「測量学 I 実習及び製図」、「都市学実験」を分担、「基礎流体力学」、「水理学」、「水理学演習」、「河海工学」、「水防災工学」を主担提供しています。「水防災工学」は、佐山敬洋先生・山口弘誠先生（京都大学）・川崎浩司先生（株）ハイドロ総合技術研究所）に非常勤講師としてご助力をいただいております。「河海工学」は今年度から 3 年生向けに提供を始めた新科目であり、従来の海岸・河川工学だけでなく地球温暖化の影響評価も含めて学べる科目を提供したいと思っています。また、大学院では「流体環境・水防災工学特論」、「特別演習（河海環境構造工学）」を提供して

います。

研究面では、(A) 基礎研究として、多孔質体通過流れや振動円柱に関する水理実験や、固液・気液界面を包括的に解く事のできる数値シミュレーション方法の開発などを行っています。また (B) 環境問題への適応策に関する研究として、内湾環境に適合した波力発電システムに関する研究、社会構造の変化を受けた内湾環境の将来像に関する研究、生態系ネットワークの構築を視点とする内湾環境改善施策に関する研究なども進めています。(C) 気候変動の影響評価や災害に関する研究として、大阪市域の浸水伝播過程及び排水過程の推定、防災・減災学習プログラムの開発、全球確率台風モデルを用いた強風・高潮・高波などの低頻度大災害のポテンシャル評価、台風予測の不確実性評価とリアルタイム防災システムと防災教材の開発、気象津波のメカニズムと予測に関する研究、全国の砂浜モニタリング手法の開発、など多方面に展開しています。

2020 年度は研究成果を、International Conference on Coastal Engineering と海岸工学講演会で Zoom にて発表しました。残念ながら土木学会関西支部年次学術講演会と海洋開発シンポジウムは非開催となりました。



この原稿を書いているのは新型コロナ感染拡大が進行し、大阪に 3 度目の緊急事態宣言が発出された直後です。昨年とは段違いに感染状況が悪化し、色々と変異型ウイルスも世界各地で生まれています。恒例の BBQ、ゼミ旅行、歓迎会や送別会なども禁じられた日が続く、貴重な時間が失われて気が滅入る毎日です。不要不急ではない、けれどもその時でなければ交わすことのできない、かけがえのない雑談の機会が減っています。ただ、昨年のことを思えば私たちも成長して、遠隔講義やゼミの運用にもすっかり慣れてきました。コロナ世代であるがゆえに、「当たり前のありがたさ」を感じる感性も養われて、不測の事態に備



える能力にも長けてきたのではないかと思います。自  
 粛疲れも確かにありますが、先が見えない中では適応

を始めた自分達を励ましながらやっていかないと、と  
 思っています。

## 環境創生領域

### 地域環境計画分野

地域環境計画分野は、都市学科の中で、熱とエネルギー利用に関わる研究・教育を担っており、都市居住における熱的快適環境を創出すること、脱炭素化社会を実現するための効率的なエネルギー利用技術の確立を目指しています。分野を構成している教員は教授・西岡真稔と、教授・鍋島美奈子の2名であり、西岡は都市の熱環境に関わる伝熱理論や都市・建築の再生可能エネルギー利用技術を専門とし、また鍋島は都市の微気象と空間解析および建物群の熱融通技術を専門としています。都市のエネルギーシステムが専門である特命教授・中尾正喜（2012年度まで在籍、現・複合先端研究機構）とは、引き続き連携して研究を進めています。2021年度は、前期博士課程9名、学部4回生7名の合計16名（男性11名、女性5名）の学生が研究室に所属しており、最近は①建物群熱融通・熱利用ネットワークの開発、②蓄熱・蓄電を用いた再エネ（太陽光発電）の自家消費向上対策、③クールスポットの環境評価・環境創出技術などの研究に注力しています。

前述の研究テーマから②を選び、紹介します。世界は脱炭素に向けて、再生可能エネルギーの大量導入が計画されています。その主力である太陽光発電は昼間しか発電できず、都市活動の需要とは時間的に一致しません。従って、当分の間は火力発電の電力と太陽光発電を併用することになりますので、このような電力供給下でCO2排出を最小化するような建物側設備システム（蓄熱・蓄電）の運用方法と効果について研究しています。

最後に、研究室の近況を写真で紹介します。皆様の生活も同様であったと思いますが、2020年度は、ほぼ1年間に渡り、人の集まる活動が制限されていました。研究室のOB・OG会も写真1のようにオンラインでの開催になりました。対面でないことは残念でしたが、自宅からの参加ですので、子供たちやペットの飛び入りがあり、これまでにないハプニング溢れる楽しい時間ができました。卒業式・修了式は、最後まで開催が危ぶまれていましたが、写真2のように天

気にも恵まれ無事に開催できました。晴れやかな笑顔で卒業・終了を迎えた時の気持ちを忘れず、今後も自信を持って元気に活躍することを期待します。



写真1 オンラインで開催したオープンOB・OG会  
 (2020年12月5日)



写真2 学位授与式後の記念写真 (2021年3月24日)

### 都市リサイクル工学分野

都市リサイクル工学分野のスタッフは、貫上佳則教授と水谷聡准教授、年見寛和技術職員の3名の教職員と、秘書の坂井圭子さん、主に水谷准教授の研究を支援いただいている化学的な実験補助の相原咲季さんの5名です。本年度の学生は、修士課程の2回生4名と1回生1名、および学部4回生が7名の計12名です。昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により研究室で顔を合わせる事が難しい日も多く、寂しい日々を過ごしていますが、ビデオ会議などを利用してコミュニケーションを欠かさず研究を続けています。

都市リサイクル工学という研究分野ですが、ごみに

関する研究だけでなく、廃棄物処理システムの適正管理、廃棄物・廃水からの資源エネルギー回収、リサイクル時の環境安全性評価、都市の廃棄物処理・上下水道システムの減災化、震災時の化学物質の挙動など様々な内容の研究を行っています。一例として、最終処分場における有機キレート薬剤について紹介します。有機キレート薬剤は焼却飛灰に含まれる重金属の溶出を抑制するために用いられる薬剤のことです。この薬剤は浸出水処理時に硝化阻害を引き起こす原因物質であると言われています。本研究室では、薬剤処理飛灰に対して溶出試験を行い有機キレート薬剤の溶出特性を調べることや、浸出水を分析することで最終処分場における有機キレート薬剤の分布調査を行いました。また、分解特性を明らかにすることなども通じて、焼却残渣の適正管理システムを模索しています。

学会活動では土木学会を始め、廃棄物資源循環学会や下水道協会、日本水環境学会、環境技術学会など様々な場所で独自の研究や産官および他大学と連携した研究の発表を行っています。昨年度は、環境技術学会年次大会にて直井さんがプレゼンテーション賞を、環境科学会 2020 年会にて山崎さんが優秀発表賞（富士電機賞）を受賞されました。

さらに、建設系廃棄物の有効利用について関連業界と研究者、行政機関が情報交換を行う建設資源リサイクル研究会（会長は、本学名誉教授の山田優先生）を 30 年近くに渡って運営しているほか、新たに廃棄物の処理や環境プラントの関連業界との情報交換を行う研究会を 3 年前から運営しています。このように研究のみでなく、各方面で学生の将来にも役立つよう取り組んでいます。

研究室の行事として、毎年ゴールドデンウィークには、新 4 回生の紹介を兼ねた OB・OG 会を実施しています。学生にとっては先輩方から環境・土木関連業界の情報を知ることができ、自身の将来展望に強く影響する貴重な機会となっています。また夏休みには研究に関係のある施設の見学を含めたゼミ旅行に出掛けています。夜には、先生方と研究室メンバーとでユニークなゲーム大会を行うなど、学生と教職員が共に楽しむことができる行事となっています。昨年度は一切実施できず非常に残念でした。

そのほか、本学のエッセイヤー活動支援事業の下、本研究室の学生と都市学科の学生有志が中心となり環境報告書プロジェクト活動を行っています。昨年度は本学 OG の大谷優里さん（関西エアポート(株)）に環境報告書を評価していただくことでさらに読みやす

く意義深いものにすることを目指しました。たくさんのご協力に心より感謝申し上げますと同時に、次年度以降もより良い環境報告書の作成と環境に優しいキャンパスを目指して活動していきます。

都市会の皆さまには、ゼミ旅行先、共同研究、学生の就職活動などでこれからも多々お世話になると思いますが、引き続き、ご指導のほど、宜しくお願い致します。

参考：大阪市立大学環境報告書([https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/info\\_university/environmental\\_report/2020](https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/info_university/environmental_report/2020))



写真 1 卒業式の日集合写真

## 環境水域工学分野

環境水域工学研究室は、相馬明郎教授（専門：水圏生態工学）、遠藤徹准教授（専門：水圏環境工学）、小池敏也技術職員（研究支援課）の 3 名の教職員で、都市の流域圏における生態系の保全と活用に資する研究・教育を行っています。2019 年度のメンバーのうち、前期博士課程 3 名と学部 4 回生 3 名の合計 6 名が NJS、日水コン、神鋼環境ソリューション、近畿地域づくりセンター、大阪市役所、大林組へと旅立ちました。一方、2020 年度は内部生 3 名と外部生（大阪府大高専）1 名が大学院に進学し、新たに 4 回生が 6 名加わったため、研究室メンバーは客員准教授：2 名（柳川竜一氏：香川高専准教授、大谷壮介氏：大阪府大高専准教授）、客員研究員：1 名（上村了美氏：日本分析化学専門学校）、前期博士課程：10 名、学部 4 回生：6 名の計 22 名という体制でした。

教育面については、学部教育では専門科目として「環境生態学」、「水圏生態工学」、「基礎移動現象論」を、大学院では「水圏生態系工学特論」、「沿岸環境工

学特論」、「特別演習（社会・生態システム論）」「特別演習（沿岸環境工学）」などを提供し、都市（社会）における生態系の重要性と役割について教育するとともに、生態系機能を社会活動に活用するための学問（生態系工学）の教育を行っています。

研究テーマとしては、①都市圏干潟・浅海域における環境改善に関する研究、②都市沿岸生態系における貧酸素化の改善に関する研究、③都市沿岸生態系の気候変動緩和機能に関する研究、④生態系回復と貧栄養化の関係性に関する研究、⑤全球の沿岸生態系保全による気候変動緩和策、⑥OCU 社会生態系モデルの開発、⑦食物連鎖を介した有害化学物質の生物濃縮機構の解明、⑧湾央域あるいは干潟浅海域の堆積物表層における物質循環メカニズムの解明、⑨港湾海域における海ごみの漂着特性に関する研究、⑩大阪湾におけるブルーカーボン機能に関する研究、⑪大阪南港野鳥園に生息する海藻類の炭素吸収機能に関する研究、⑫大阪湾の潮間帯における生態系ネットワークに関する研究、⑬環境統計データに基づく大阪湾の溶存酸素環境の変動解析など、数理モデル・フィールド調査・室内実験・統計データ解析など、あらゆる手法を駆使し、近畿圏から全球スケールにおける水圏生態系に関わる研究を実施しています。また、学内のみならず他の研究機関（港湾空港研究所、兵庫県水産試験場、東洋建設鳴尾研究所）、大学（東京大学、広島大学、大阪府大高専）、地方公共団体（大和川河川事務所、大阪府、大阪市）などと連携しながら活動しています。

2020 年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、本学でも原則遠隔化となり、教育活動はもちろんのこと、研究活動も制限が設けられ、例年とは全く違う 1 年でした。ゼミナールも ZOOM による遠隔ゼミがほとんどだったため、前期の間は環境整備などに大変苦勞しました。後期に入ると、遠隔での研究活動にも慣れてきましたが、フィールド調査には学生を同行することができませんでした。また、研究室のイベントは顔

合わせ、新歓 BBQ、ゼミ旅行、忘年会、追いコンなど一切の懇親会ができず、残念ながら 2020 年度の研究室のメンバーとの交流はほとんどできませんでした。

このような状況でしたが、学会関係では池田君、済木君、菊池君、北野君、葛原君、名倉君が土木学会関西支部年次学術講演会（近畿大学：コロナウイルスの影響により講演会は中止）に卒業研究の成果を投稿しました。また、海岸工学論文集に「マングローブ・海草複合生態系による気候変動緩和のメカニズム～数理モデル解析～」、「堆積物中の形態別炭素に着目した都市沿岸部の炭素貯留効果に関する研究」、「水質連続モニタリングによる大和川河口域における CO2 交換特性の把握」を投稿し、土木学会海岸工学講演会（オンライン）にて研究発表を行いました。オンライン開催ということで例年は会場での参加ができない学生も多数参加でき、学会の雰囲気味わえました。

今年は、恒例の研究室の新年会も開催中止となったため、2021 年 1 月 9 日に河海工学・環境水域工学研究室の Zoom パーティーを開催しました。河海・環境水域の関係者 20 名ほど参加し、近況報告しました。来年もコロナウイルスの収束が見通せない状況ですが、この状況が落ち着いたころには、ぜひ研究室にもお越しください。



卒業式の集合写真：残念ながら追いコンは開催できませんでしたが、感染に注意を払いながら撮影しました。

## 都市デザイン領域

### 環境都市計画分野

2020 年度の都市計画分野は、嘉名光市教授、4 月に准教授に昇任した蕭閔偉准教授、後期博士課程 2 名、前期博士課程 13 名、学部 4 回生 5 名の体制で活動を行いました。

7 月には蕭准教授が大阪市立大学「グローバル人材育成事業」若手研究者奨励賞「恒藤恭記念奨励賞」を受賞し、2 月には嘉名教授が「生きた景観マネジメント」（鹿島出版会）を出版しました。

研究活動は、まち歩き観光の種類による回遊行動とその評価に関する研究、SNS に投稿された都市風景写真の分析研究、地域活動の展開とプラットフォーム

組織の活動との関係についての研究、木津川遊歩空間「トコトコダンダン」の計画・デザインプロセスとアクティビティ分析、人口減少時代の都市計画策定プロセスでの情報提供に関する研究、天王寺公園「てんしば」の事業実態と評価に関する研究、ミナミ御堂筋での社会実験区間での通行・滞留行動の実態など、多様研究領域の開拓にチャレンジしました。

例年通りコンペ活動も活発で賞をいただきました。2020年12月：研究室学生7人が参加したJR西日本・大阪市立大学共催「第2回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」において2作品が「ベストユニーク賞」「特別賞」を受賞しました。すべてをご紹介できる紙面の余裕がありませんがご容赦ください。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研究室での教育研究活動の制約が大きいなか、学生諸君も大変だったと思いますが、さまざまな創意工夫を盛り込みながら精力的に活動してくれました。

研究室の活動の詳細はホームページで報告していますので、ごらんください。

(<http://www.urban.eng.osaka-cu.ac.jp/groups/plan/index.html>)



卒業式当日の記念写真

## 都市基盤計画分野

### 1) 教員及び学生の近況紹介

#### ●内田敬／教授

交通工学・国土計画：都市活性化のための来街者支援情報システム、交通需要予測のための回遊行動観測システムの開発、視覚障害者の街歩き支援ナビゲーションシステム

#### ●吉田長裕／准教授

交通環境工学：都市交通のグリーン化に関する研究、歩行者・自転車の快適性、安全性の評価方法に関する

研究

学生(令和3年度)：前期博士課程7名、学部7名、計14名。令和2年度には、学士課程8名卒業(うち1名は9月卒業)。

### 2) 研究成果について

以下に令和2年度の研究成果(受賞及び修士、卒業論文題目)を示します。

#### <受賞>

日本都市計画学会関西支部令和令和2年度学生ワークショップ「堺旧港周辺のまちづくりを考える」(2020/10/21、12/19)において、西村直峻君(M1)が最優秀賞を、吉川令君(M1)、澤田和樹君(4回生)、多田寛脩君(4回生)が優秀賞を、石井真弘君(M1)、蔡曉敏さん(M1)が審査員特別賞を、それぞれ受賞しました。

#### <卒業論文題目>

- ・国内外の道路空間再編・利活用事例の類型に基づいた歩行空間の質向上方策に関する考察-大阪梅田周辺への方策適用事例-
- ・モバイル位置情報データを用いた歩行者回遊経路と街路構成の関連分析-大規模ターミナル駅周辺を対象として-
- ・盲導ロボット犬の回避制御検討のためのUnity仮想空間の構築
- ・「ことばの観光地マップ」の実用展開に関する研究
- ・信号交差点における高速畳み込みニューラルネットワーク手法による軌跡データを用いた自転車と左折車の錯綜分析
- ・ヘッドマウントディスプレイを用いた自転車運転者の運転タスクが生体反応に与える影響に関する実験的研究-追い越し行動の事例-
- ・利用者・車両運行コストを拡張した自動運転車相乗システム最適化モデルの定式化

### 3) 活動内容の記録

以下は、研究室における活動記録です。



研究室メンバーの集合写真(11月)



大学院授業「都市基盤計画特論」では、研究室 OB にもお世話になり、西淀川でタンデム自転車を使ってまち歩き WS を実施（11～12 月）。

ターを利用した B4 桐原君の作品と論文が採択となりました（写真 2）。特別演習においても活用し、卒業設計における利用もありました。

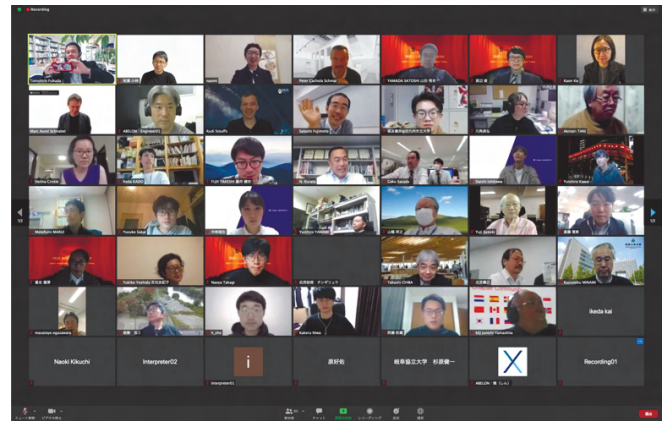


写真 1 情報・システム・利用・技術シンポジウム



ドイツから鉄道関連プロジェクトの代表者が来阪し、梅田大阪駅周辺の開発状況について、意見交換を行いました（3 月）

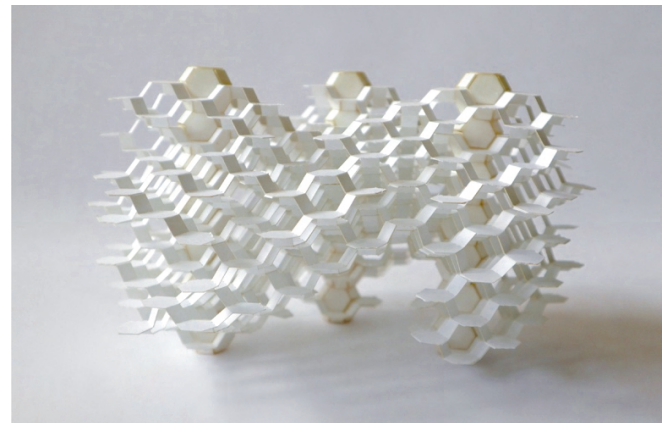


写真 2 Kiri-ori-gami

## 環境図形科学研究室

2021 年度の環境図形科学研究室では、学部教育において全学共通科目の図形科学 I、II を担当し、大学院教育では、環境情報処理特論と特別演習を担当します。

以下は 2020 年度の主な活動です。

＜幾何学、グラフ理論などの数理に基づいた建築・都市の設計手法の探求＞

日本建築学会全国大会は中止となりましたが、情報システム技術部門のみ遠隔発表会が行われ、小林と M1 の河合君が発表しました。情報・システム・利用・技術シンポジウムも遠隔にて行われ、M1 阿瀬君、河合君が研究発表を行いました（写真 1）。

レーザーカッターが建築学科に導入され、学生とともに運用しています。Bridges 2021 : Mathematics, Music, Art, Architecture, Culture にはレーザーカッ

＜卒業設計題目＞

- ・京橋の森公園
- ・ Learning Station
- ・第二の家 新しいタイプの艇庫の提案

＜卒業論文題目＞

- ・VGA を用いた書架及び閲覧滞在スペースにおける相互可視性に関する分析
- ・枯山水庭園の庭石に着目した分析と石組間距離に基づく配置手法の検討
- ・切頂八面体に基づく柔軟な空間充填立体による形態デザインの検討
- ・3次元地形図データを用いたランドマークに関する可視性の分析—あべのハルカス・通天閣・大阪城を対象として—
- ・最小重み Laman グラフの交差数の検証

＜学会活動＞

- ・オンラインにてデザイン科学数理知能研究集会を開催しました。

2021年度はM2が2名、M1が2名、B4が2名となり、教員含めて7名体制で研究活動を進めていきます(写真3)。

また、これまで幹事を務めてきた日本建築学会 デザイン科学数理知能小委員会におきましては、今年度より主査を務めます。そして、発起人の一人となり設立されました建築情報学会では、論文編集小委員の幹事を務めます。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



写真3 卒業式にて研究室学生とともに

## 就職ガイダンス

学生支援活動の一環として、大学が行う学部1~3回生、修士1回生を対象とした「進路指導・キャリア教育イベント」に加え、都市学科業界説明会を3回に渡って開催、第1・2回は業界説明会として、各業界から学生に対しての説明会、第3回は合同企業OB・OG説明会として41団体の企業・官公庁に参加いただき、開催しました。やむなくではありましたが、全学の方針もあり、新型コロナウイルス感染症対策として全てオンライン(zoom)での開催となりました。初めての試みでもあり、不安もありましたが、相談会ではzoomのブレイクアウトルーム機能を用いて個別の相談を開催し、学生も熱心に聞き入っていました。

各回の参加企業は下記のとおりで、多くの先輩諸氏から説明を頂きました。新型コロナウイルス感染症対策で就職活動が厳しい状況のなか、先輩諸氏の多大なるご協力により、就職ガイダンスを進めています。この場をかりてお礼申し上げます。

第1回目業界説明会：令和2年11月19日

- ・ゼネコン：鹿島建設(株)
- ・建設コンサルタント：中央復建コンサルタンツ(株)、(株)日建設計シビル
- ・鉄道：JR東海(株)
- ・道路：阪神高速道路(株)
- ・橋梁：(株)横河ブリッジ
- ・環境・プラント：(株)タクマ

- ・通信・設備：(株)NTTファシリティーズ
- ・地方公務員：大阪府、尼崎市

第2回目業界説明会：令和2年12月10日

- ・ゼネコン：(株)鴻池組
- ・マリコン：東洋建設(株)
- ・建設コンサルタント：パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)長大
- ・鉄道：JR西日本(株)、京阪電気鉄道(株)
- ・エネルギー：関西電力(株)
- ・水処理：クリアウォーターOSAKA(株)
- ・プラント：日鉄エンジニアリング(株)
- ・国家公務員：国土交通省近畿地方整備局

第3回目合同企業OB・OG説明会：令和3年1月15日

- ・ゼネコン：(株)大林組、西松建設(株)、(株)銭高組
- ・マリコン：東亜建設工業(株)
- ・道路：西日本高速道路(株)
- ・鉄道：大阪市高速電気軌道(株)、近畿日本鉄道(株)
- ・エネルギー：電源開発(株)
- ・建設コンサルタント：(株)オリエンタルコンサルタンツ、大日本コンサルタント(株)、(株)日本設計、キタイ設計(株)
- ・橋梁：川田工業(株)、(株)IHIインフラ建設、(株)日本ピーエス
- ・機械・環境：川崎重工業(株)、(株)プランテック
- ・都市開発：(独)都市再生機構
- ・公務員：兵庫県、大阪市、神戸市

## 叙 勲

大井健一郎氏(昭和53年卒)が、  
国土交通行政事務功勞により  
令和3年春の叙勲 瑞宝双光章を受章されました！



(略歴、従事業務)

昭和53年4月に建設省に入省、中部地方建設局沼津工事事務所に配属後、関東地建、建設省道路局で東京外郭環状道路、首都圏中央連絡道路の調査計画推進、高規格幹線道路網14000km計画とりまとめ担当。

その後九州地建大分工事事務所、同局道路部道路計画第一課長、第二課長として東九州自動車道、福岡外環状道路等九州の高規格幹線道路等の計画・事業の推進、大宮市建設局に出向後、近畿地建京都国道所長、同局道路調査官として京都縦貫道路、第二京阪、京奈和自動車道等の事業および大阪都市再生環状道路計画として淀川左岸線、大和川線の計画を推進、その後、首都高速道路公団、名古屋高速道路公社、阪神高速道路(株)において、東海線、淀川左岸線等各地域の事業推進、ETCを活用した多様な料金制度の導入に尽力、近畿建設協会副理事長を経て、現在、(株)近畿地域づくりセンター副社長として、建設事業の発展に尽力されています。

土木構造物の  
**維持管理の全局面を担う**  
調査・診断、設計、施工管理支援

 株式会社CORE技術研究所  
<https://www.coreit.co.jp>

本社 〒530-0047 大阪市北区西天満1丁目2番5号大阪JAビル4F  
Tel.06-6367-2122(代) Fax.06-6367-2322

東京支店 〒111-0053 東京都台東区浅草橋3丁目8番5号VORT浅草橋8F  
Tel.03-5825-9166(代) Fax.03-5825-9170

**コンクリートメンテナンスの  
リーディングカンパニー**  
~~リーディング~~  
ヒーリング

★床版用防水材「HI-SPEC シール工法」  
(阪神高速道路×アイソールテクニカ 共同開発技術)

★表面保護材「アイソール EX 工法」  
(国土交通省 NETIS・H24 年度準推奨技術)

 **isol technica**  
株式会社アイソールテクニカ

アイソール 

# 特 別 寄 稿

## 三笠正人先生の ご逝去を悼む

大島 昭彦



三笠正人先生におかれましては、去る令和2年6月17日に逝去されました。96歳のご生涯でした。ここに謹んで三笠先生の略歴と業績を紹介させていただきます。

三笠先生は、昭和23年3月に九州帝国大学工学部土木工学科を卒業（入学時は航空工学科で終戦後に転学科）、昭和25年3月に同大学大学院第一期特別研究生を修了し、九州大学工学部に助手として勤務されました。その後、昭和27年2月に大阪府立大学理工学部講師に採用され、昭和34年4月から工学部土木工学科に所属、昭和38年4月に助教授、昭和40年4月に教授に昇任され、土質工学講座を担当し、高度な教育・研究に指導的な役割を果たされました。昭和62年3月に同大学を定年退職され、大阪府立大学名誉教授の称号を授与されています。昭和62年4月から摂南大学教授に就任され、平成3年3月に期間満了により退職されるまで、私立大学における教育・研究にも貢献されました。

さらに、平成3年4月から土質基礎工学センターを設立され、引き続き地盤工学の研究活動に務められました（平成20年5月まで）。平成4年には長年の学術業績から紫綬褒章を受章されました。

三笠先生の研究業績は多岐にわたりますが、まずは何といたっても「三笠の圧密理論」が挙げられます。九州大学時代に超軟弱な有明海沿岸の三井三池炭鉱の人工島「初島」の三次元沈下問題を手がけられ、これが地盤工学の道に入るきっかけとなったようです。その後、大阪市立大学に移られてから、昭和35年に大阪南港の超軟弱埋立地の地盤改良に地下水位低下圧密工法を提案され、実物大の現場試験工事が行われました。その際に、埋立層の圧密沈下過程の解析法の研究から、多くの仮定の下に成り立つ過剰間隙水圧に基づくテルツァギーの圧密理論に大幅な修正を加え、圧縮ひずみに基づく一次元圧密理論の一般化という世界的に知られた大きな成果を挙げられました。一般化された圧密理論では、圧密中の粘土の圧縮性・透水性・層厚・圧密係数・圧密圧力の変化および粘土の自重応力の影響を圧密沈下の時間過程の計算に取り入れられ、さらに圧密終了後の定常状態における粘土の状態量と有効応力分布が正しく計算できるようになりました。この研究成果をまとめた「軟弱粘土の圧密に関する研究」により九州大学から工学博士の学位が授与され、その内容は「軟弱粘土の圧密～新圧密理論とその応用～」として昭和38年に鹿島出版から出版されました。これはその後の圧密研究、また各地の粘土地盤の圧密解析に広く利用されています。さらに、この理論は不均質

**Straight  
to the Future**

オリエンタル白石株式会社

地球のために  
人のために  
デザインする使命

http://kitai-r.jp/

建設コンサルタント  
キタイ設計(株)



な粘土地盤の圧密解析法にも拡張されて理論の応用範囲を拡げています。

次に、土の強度に関する研究においては、まず土の力学的性質が土の種類と土の状態(含水量、密度、骨格構造)によって決まることを定式化し、これらの因子の中で定量化しにくい骨格構造に「構造の概念」を導入することによって、例えば繰り返した粘土の強度が相対含水比(液性指数)のみで表し得ることや、土のダイレイタンス挙動が土の構造の相対的な位(高位、低位)の違いでよく説明し得ることを明らかにされました。さらに、昭和38年に発表した土のせん断強度論において、実際の安定問題を解く工学の立場から、当時欧米で普及しつつあった「有効応力法」を土の構造の概念に基づいて批判し、土の強度特性はせん断中の有効応力状態だけで表せるものではなく、土が受けてきた応力履歴をそのまま反映できるせん断前の応力状態と強度で表すべきであるとする、実用的な「一般全応力法」による安定解析法を提唱されました。また、昭和29年に新しい形式の三軸圧縮試験機(日本で初めて供試体の間隙水圧の測定に成功)を、昭和34年に改良型一面せん断試験機(三笠式とも呼ばれる)を開発されました。後者による定体積せん断試験は、せん断中の非排水条件を供試体層厚の変化に代えて制御するという独創的な方式を採用し、昭和39年に発生した新潟地震での緩い砂層の液状化現象を砂の非排水繰返しせん断における負のダイレイタンス効果として実験的に説明されました。この試験機は実用性の高いせん断試験機として今日広く普及しています。これらの「粘土の圧密とせん断に関する一連の研究」業績に対して、昭和38年度土木学会賞を授与されました。

さらに、軟弱粘土の新しい圧密理論による理論的

考察から、縮尺模型の粘土地盤の自重応力レベルを実物と同じにできれば、模型と実地盤の間に、圧密時間が粘土層厚の2乗に比例する(H2則)という通常の相似則が成立することを導かれました。これによって縮尺模型の粘土地盤を回転させて生じる遠心加速度場で圧密させ、その観測結果を原型スケールに外挿して実地盤の圧密過程を推定する実験手法を確立され、昭和40年1月に西側諸国で初めての遠心模型実験を行い、地盤工学分野における遠心模型実験の途を開かれました。この実験手法は、自重による地盤内応力が支配的で、かつ力学特性が応力状態に強く依存する地盤工学分野に極めて有効です。装置はさらに改良され、砂地盤の支持力、粘土斜面やダム安定、擁壁や矢板壁の土圧、埋設管の土圧、砂杭改良地盤の安定、重錘落下締固めなど、地盤の変形・破壊挙動、地盤と構造物の相互作用などに関わる多くの地盤工学現象の解明にその利用を拡大していきました。今日この実験手法は、国内はもとより世界的に広く研究と実務に用いられています。この「遠心力模型実験の開発と応用」に関して、昭和60年度土質工学会技術賞を受賞されました。

その他にも、関西国際空港、大阪市や神戸市をはじめとする臨海部の大規模埋立造成の計画と施工面における技術的課題の解決に大きな功績を残されました。また、大阪府の宅地造成についても指導的な役割を果たされました。ご遺族からは、亡くなる直前まで、南海トラフ地震の津波対策として泉州沖に防波堤を築くアイデアを研究されていたことをお聞きしました。

さて、学会での有名な出来事といえば、京都大学の赤井浩一先生による「有効応力法」と三笠先生の「全応力法」の討論が挙げられます(私が初めて学会に参加した頃も続いていました)。若い方は当然ご

100年をつくる会社  
鹿島

コンクリートで+αの可能性を広げる

Concrete  
Potential of Concrete  
KCON  
https://www.kcon.co.jp

【本社】  
〒613-0903  
京都市伏見区淀本町225  
TEL:075-631-3231  
FAX:075-631-9588

【大阪営業所】  
〒534-0025  
大阪市都島区片町二丁目  
2番48号J1京橋ビル2階  
TEL:06-6355-0505  
FAX:06-6355-0507

開発・設計・施工・製造・販売・総合建設業

存じないと思いますが、お二人の議論になると発表者は完全に蚊帳の外で、参加者は「さあ始まった」として議論を拝聴したものでした。今では考えられないことです。

さらに、1985年頃から、計量法改定に臨んで、「単位系問題研究会」を立上げられ、精密な論理構成の下、学会や社会を巻き込んで Anti SI の論陣を張られました。この SI 反対運動は多くの方々の共感に支えられました（研究会の会員数は産学官で約 1,500 人）が、共に反対運動の先頭に立とうとする方が少なかったことや 1999 年に商取引きと証明には SI を使うことが義務づけられたことに伴い、自然消滅となったようです。しかし、現在でも重力単位の方が地盤工学に相応しい単位と思っている方は多いかと思えます。

私自身が三笠先生から直接指導いただいたのは 4 回生になって研究室に配属された昭和 54 年からで、既に 40 年を超えました。天才とはこういう方のことをいうのが最大の印象（良い意味と悪い意味もありますが）で、1 聞くだけで、10 すぐに理解しているということで、論文提出時（当時は手書き）には何度も添削されましたが、その都度納得できる（反論できない）指摘であり、論文執筆を通じて、何事にも納得するまで徹底的に取り組む姿勢と地盤工学に対する先生の哲学をご教授いただきました。

私が先生に最後にお会いしたのは一昨年の 7 月で、まだまだ大変お元気でした。その時に「私がやったことで最も重要なことは土の構造の概念である」と言われました。圧密でも遠心でもなく、土の構造であるということが強く頭に残っています。その時には 100 歳まで生きると言われていましたが、残念ながらありませんでした。

最後に、三笠先生が亡くなられたときは新型コロナ

ナウィルス感染が猛威をふるい始めていましたので、ご自宅にお参りすることもできませんでした。やっと 49 日の法要の時にご遺族の許可を得て、20 数名の方とお参りができました。その後もコロナ禍の中、何もできない状態が続いていますが、コロナが収まった段階で、卒業生や関係者の皆さんとともに「三笠先生を偲ぶ会」を企画したいと思っています。

三笠先生から薫陶を受けた多くの方々に「三笠ism」は今後も生き続けると思います。これまでのお教えに厚く感謝申し上げ、衷心より哀悼の意を表します。

## 女性の会が発足！

矢野 幸子  
(昭和 63 年卒)



皆様、初めまして、こんにちは。S63 年卒業の矢野幸子です。土質研究室（現在の地盤工学分野）を卒業して以来、建設コンサルタントで橋梁関連の設計をしています。

私の卒業時には女性会員が 3 名でしたが、平成の後期から都市会の女性会員の数が増加して、今では学生会員も含めて 200 人を超えるようになりました。

そこで、男性が主体となって交流している都市会の現状に対して、女性も都市会での交流をできるようにと、昨年度、新たな分科会として「女性の会」を発足いたしました。

私、非力ではありますが、その会長を務めさせていただくことになりました。よろしく願いいたします。

昨年度の発足にあたり、11 月 14 日に「2020 年は建設産業女性定着元年！！！」と題して、建設産業女

まじめに、まっすぐ  
**KONOIKE**

人と社会をずっと支えていくために、私たちに信頼に応える責任があります。まじめに、まっすぐ、ひとつになって成しとげる、熱い思いと確かな仕事。おかげさまで、私たち鴻池組は 2021 年に創業 150 周年を迎えます。

2021  
150  
鴻池組

ワクワク未来  
創りたい

Mr. PENTA

その先の向こうへ  
GOING FURTHER  
五洋建設  
GONDA KEEN ENGINEERING  
東京都文京区後楽 2-2-8  
http://www.penta-ocean.co.jp

性定着ネットワーク幹事長である須田久美子様による講演会を開催いたしました。

女性として建設産業で働くことの喜びや悩み、いろいろなライフステージの変化にどのように対処したか、これからの建設産業における女性の重要性など興味深いお話をしていただきました。

都市会のホームページに講演会で使用したパワーポイントが掲載されていますので、ぜひご覧ください。(女性会員だけでなく、男性会員にも見ていただきたい内容ですので、ぜひぜひご覧ください)

さて、「女性の会」の趣旨は、堅苦しくない、気軽な交流です。会員が気軽に相談や愚痴のできるおしゃべり会や女子会をイメージしています。

いきなり昔話になりますが、私が卒業した当時、建設産業で働く女性は非常に少なく、また工事現場で女性が働く環境も整っておらず、就職先も限られている状態でした。さらに、建設産業に存在する女性というだけで目だったり、逆に広告塔に使われたり、女性の感性を要求されたりなど、嫌ではないけれども、複雑な思いをしたことがありました。もちろん、数少ない女性ということで、大切にされたり、すぐに名前を憶えてもらえたりと、いいこともありました。それもまたある意味で複雑でした。そんな中で、同じ業界の女性と交流することで、いろいろホッとしたものです。

いまでは、女性が建設産業で働くことも当たり前のようにになりましたが、それでも男性ではないということに起因する問題や悩みなどは残っているように思います。

そんな問題や悩みを解決するには至らないと思いますが、同じ業界の女性と交流することで、少しでも女性会員の皆様にホッとしていただけるように、「女性の会」は皆様をお手伝いできる会にしていきたいと考えています。

いずれは「女性の会」だけでの同窓会を開催したいとは思っておりますが、コロナ禍の中、なかなか対面での交流は困難ですので、今しばらく、「女性の会」での同窓会はお待ちください。

そこで、現在できる活動として、「女性の会」は、女性会員を繋げる役割を担いたいと考えています。

「同期の女性会員と連絡を取りたいなあ」「〇〇について相談したいなあ」「とにかく愚痴を聞いてほしい！」など、非対面で交流が可能なことについてはありますが、気軽に「女性の会」へメールを送っていただけますでしょうか。

専用のメールアドレスは

[ocurbanalumnijosei@gmail.com](mailto:ocurbanalumnijosei@gmail.com) です。

私も含め「女性の会」の役員が、ご要望、ご意見を伺い、女性会員同士を繋げるよう、できる限り対応させていただきます。とはいっても、本業がありますので、少々お時間を頂くこととなりますが、そこはご了承ください。

女性会員の皆様からのメールをお待ちしていますのでよろしくお願いたします。

さて、最後に少しだけ、都市会について書かせていただきます。

私は常々、都市会という組織は、歴代の卒業生の皆様の知恵と経験の集合体であると考えています。

しかしながら、女性会員や若い男性会員はなかなか同窓会でお見かけすることができず、少々残念に感じています。

会員の皆様には、ぜひとも都市会の活動にご参加いただき、この集合体をさらに活かしていただきたいと思っています。

結びに、都市会のさらなる発展と、会員の皆様の今後のご活躍とご健勝を心から祈念しております。



夢を架け  
空間を創る

**10<sup>th</sup>**  
Anniversary

**KH** 株式会社 駒井ハルテック  
KOMAIHALTEC Inc.

<https://www.komaihaltec.co.jp>



なにができるんだろう？

夢と希望にあふれた  
社会づくりを実現させるために、  
わたしたち大成建設は  
これからも人がいきいきとする環境を  
創造します。

地図に残る仕事。  
**大成建設**  
For a Lively World

## 全国の大学等で活躍する卒業生 (その1)

### 興味はつづくよどこまでも！

近畿大学理工学部教授  
麓 隆行  
(平成9年卒)

コロナ禍の中、皆さんは何をされましたか？私は、時々近所を1~2時間散歩しました10年住んだ街にある数多くの未知の風景にわくわくしていました。様々な起伏や段差、整然と並ぶ街並みや車も通れない蛇行した小道。街には多くの歴史や秘密が隠れている。そこには、今後の街の発展のヒントかもしれません。

私の専門分野はコンクリート工学や建設材料学です。コンクリートの主な構成材料は、水、セメント、砂、石です。しかし、その多くは天然資源で、同じものではありません。工業製品であるセメントの品質も、工場や季節により変動します。そのコンクリートの施工性、強度や耐久性を一定範囲に収めようというのですから、まさに職人芸（弘法筆を選ばず）です。材料の個性を分類・把握し、適材適所で使用する建設材料学の考え方は、個性をあふれる食材を用いた伝統や創作の料理や人材を適材適所に配置した活気ある職場づくりに似ていると思いませんか？そう、その発想のヒントは日々の生活や情報にあふれているのです。

この10年はコンクリートのためのX線CT装置の開発と活用に取り組んできました。近年の医療や推理ドラマのように、今やX線CTで内部を可視化

するだけでなく変化や変形を定量評価し、様々な現象の根拠となる資料を提供してくれます。現在は、応力や氷点下などの外的要因によるコンクリート内部の変形を可視化し、劣化・破壊過程の解明に取り組んでいます。

X線CTの技術を学ぶため、2017年にスウェーデン、ルンドに滞在しました。その際に見た街並み、生活様式は、実に興味深いものでした。機会があれば、お話ししたいと思います。

学生や若手の後輩の皆さんには、どんな些細なことも興味を持って見てほしいと思います。その小さな発見は、新しい発想や未来につながります。コロナ禍の日々だからこそ、ぜひ身近な「興味」という楽しみを！



写真1 コンクリート実験室での授業風景



写真2 開発したX線CT装置と著者

思いがあって、土木がある。

亀山サンシャインパーク  
三重県

東名阪自動車道  
亀山パーキングエリアに  
隣接する総合公園。  
公園施設の老朽化が  
課題となっていました。

テーマやゾーニングなどを  
再検証し、多世代にわたって  
思い出が引き継がれるよう  
整備方針の策定・公園施設  
の実施設計を行いました。

<https://www.ne-con.co.jp>

大日本コンサルタント株式会社  
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.

人をつなぐ、  
街を結ぶ、  
未来へ延びる。

信用と技術の  
鉄 建  
<https://www.tekken.co.jp/>

## 最近思うこと

東京支部支部長  
川満 逸雄  
(昭和 53 年卒)

コロナの感染が収まらない日々が続いています。例年、都市会東京支部の総会を 11 月に開催しているのですが、昨年は、コロナの感染拡大を考え中止とさせていただきます。今年も 11 月 19 日に開催する予定で、会場も予約しておりますが、最終的な判断は開催一ヶ月前頃の感染状況を見て決めさせていただきますと考えております。総会を楽しみにお待ちいただいている皆様には、申し訳ありませんが、会員皆様への感染拡大を防ぐために、ご了承をお願いいたします。

私は、建設コンサルタントと会社を定年で退職し、親戚の照明柱を製造する会社に再就職しました。全くの異業種へ代わったのですが、今までの常識が通用しないこと痛感しました。何点か紹介します。

【コンクリートは、練り混ぜた水が蒸発して固まる】  
会社でモルタルを練る機会があり、プレミックスモルタル、水の重さを正確に測って練り混ぜたのですが、「砂場で水を混ぜて塔を作る要領でいいのでは、水が抜けて固まるでしょ」と言われました。

【コンクリートの中でも鉄は錆びる】

照明柱の製造で、コンクリートの基礎に埋め込む部分もメッキをして塗装をしていました。この部分には不要ではと聞いたのですが、「地面の下になるから、錆びるじゃないですか」と言われました。

これが、世の中の常識かなと思います。ただ、工場の方は溶接の知識・経験が豊富で正確適切な溶接を行っています。また、ISO9000 に関しても、コンサルタント時代は、違和感があったのですが、製造業では非常にマッチする制度であることも感じました。

まだ、しばらくは我慢の時間かもしれませんが、コロナ禍が収まり、皆様と再会できる時が早く来ることを願っています。

## 連載企画

### 『10 年ひと昔で強める同期の絆』

#### 10 年ひと昔

長いようで過ぎてみると短い外面の変化は隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま  
その積み重ねで気がつけば〇年  
そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます  
毎年区切りの年はあります  
次はあなたの学年ですよ

## 楠田 行利

昭和 55 年卒

昭和 55 年卒業の楠田行利です。

簡単に自己紹介します。卒業後、日本国土開発㈱に入社し、中国、四国、関西の現場を 20 年程転々とした後、支店勤務となりました。途中から営業職に移っていた関係で、同期の原田氏が OB 会評議員から理事に移ることとなったため、代わりに評議員を務めることとなりました。

そのような時期、2011 年に自分として大きく方向が変わった東北震災が生じました。その影響で営業の傍ら、震災がらみでコンサルタントに協力していたの



Create Value,  
Build the  
Future

私たちの今が、社会の未来を創る

**東亜建設工業**  
TOA CORPORATION

〒163-1031 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp



人と地球にあたたかな技術、  
ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。  
地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。  
人にあたたかな技術を追求し、夢を確かなカタチに育て、  
感動の明日を築いていきます。

**東洋建設**

〒541-0043 大阪市中央区西船場 4-1-1  
Tel.06-6209-8711  
http://www.toyo-const.co.jp

ですが、協力の方がメインとなり、翌年の4月から東北勤務となりました。

移動当初は、コンサルタント業務でしたが、東北の復興業務が忙しくなり会社の現業に駆り出されることとなりました。

最初は、岩手県で高台移転業務に就きました。これは、津波被害にあった箇所を再度住めるように、土砂にて埋め立て高台とし、そこに街づくりを行うものです。

この時の心境として、津波の被害を受けた箇所の復興をどんどん進めていけば10年程度で復興は一段落するのかと、単純に考えていました。

その後、福島県南相馬市の現場へ移りました。

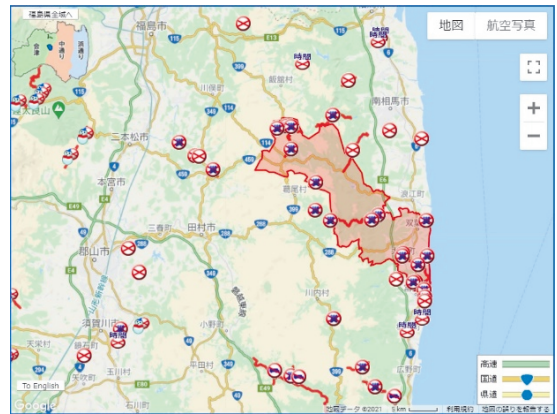
ここでの最初の業務は、福島第一原発が被災したため、周辺へ飛び散った放射能汚染物を除染する業務でした。

これは、人が住む区域に飛散した放射能を、汚染された表層と併せて除去し、除去した汚染物を大きな袋に詰め、各地域の仮置場に集積する作業です。その後、別業務として仮置場に集積した袋を、第一原発の周辺に設けた区域（双葉町、大熊町）に運搬し、一時的に貯蔵する業務にも就きました。

福島には通算4年8か月在籍し、昨年3月携わっていた業務を終えたのですが、福島は現在も作業を継続しております。

集積した汚染物の袋の数は、当初福島県だけで20万を超える数量で、この3月で10年を経過しましたが、現在も跡片付けの最中であり、来年3月にやっと運搬を完了する予定だそうです。

完了を見ることなく現地を去ることとなりました。今年、震災以降丸10年が経過し、報道でも改めて震災の悲惨さを放映していましたが、片付けが早く終わることを大阪の地で祈っている次第です。



福島県の高線量による通行規制範囲

### 令和3年度の総会・懇親会の中止について

例年、会員が年1回集い近況を語り合い、また、現役学生との交流の機会として、総会・懇親会を開催していましたが、今年も残念ながら新型コロナの感染拡大防止のため中止します。

### 令和3年度電子・郵便総会の開催お知らせ

このため、例年、総会におきましてご審議頂いている決算・予算の評議員会の報告、役員・評議員の選出、都市会規約の変更の3議案について、電子・郵便によ

る会員各位のご意見を求めます。例年、総会に先立ち評議員会で議案審議の後、総会にお諮りしていますが、今年、6/7-6/18の12日間、評議員の電子・郵便投票による審議を頂き、全議案に対し承認（投票総数11票）を頂いておりますことをご報告致します。

### 投票期間 令和3年8月5日(木)-8月18日(水)

（議案の詳細は別紙「電子・郵便総会開催のお知らせ」をご覧ください）

 戸田建設  
www.toda.co.jp



TODA Group Global Vision

“喜び”を実現する企業グループ

NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED

株式会社 日建設計シビル

代表取締役社長 岡田 亨嗣

東京 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番27号 TEL 03-5226-3070  
大阪 〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町3丁目6番14号 TEL 06-6229-6372  
名古屋 〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目15番32号 TEL 052-261-0815

支所・営業所 北海道 東北 神奈川 九州 千葉 静岡 京都 神戸 沖縄 堺  
海外 上海 ハノイ ホーチミン ビエンチャン

## 事務局だより

### 会員数 (令和3年4月1日現在)

正会員 2,511名、特別会員 149名、学生会員 319名、総数 2,979名

### 会費の納入のお願い!

#### ●会費

年会費は2,000円です。

- ・都市会会計は令和2年度も繰越金をほとんど減らすことなく決算をできました。皆様のご協力に感謝申し上げます。会員へのサービス提供を継続できるよう引き続きご協力よろしくお祈いします!
- ・学生会員(大学院在学を含む)は会費納入が免除されております。

#### ●旧環境都市会同窓会に在籍された会員の皆様へ

平成26年度に旧土木会、旧環境都市同窓会、旧都市会が合併して「都市会」が発足して5年目を迎えます。旧環境都市同窓会会員の皆様には終身会費として10,000円をお支払い頂いており、都市会発足後の5年間は会費の納入が免除されておりました。しかし、都市会発足時の規約制定に従い、令和元年度から年会費を請求させていただいておりますので御了解のほどお願い致します。

#### ●終身会費

一括して会費を納入していただくことも可能です。会員在籍年数に応じて以下のように定められております。(令和4年度会費改正の場合は1.5倍に変更の予定です)

会員在籍年数(会費滞納のないことが前提です)

11年～15年以内の会員	70,000円
16年～20年以内	60,000円
20年～25年以内	50,000円
26年～30年以内	40,000円

31年～35年以内	30,000円
36年～40年以内	20,000円
41年以上	15,000円

在籍年数が50年を経過した会費滞納のない会員は、以後の会費納入が免除されます。

#### ●令和4年度より会費の改定(予定)について

都市会会費については、創設以来2千円/年としてまいりましたが、今後の着実な会の運営を図り会員へのサービス継続のため、総会において承認を頂ければ令和4年度から会費を3千円に、併せて終身会費の改定を予定しています。

### 会員交流の促進

#### ●職場班の結成を促進にします!

従来、職場班は全員参加がルールとなってきましたが、令和元年度よりその縛りをなくします。5名以上の会員で結成することができ、会費の10%を職場班活動費として補助します。現在、大阪市、近鉄、神戸市の3職場班があります。

#### ●職場代表幹事制度

H30年度より各職場と都市会の連絡の窓口となる職場幹事を選任して頂き、会員情報収集等ご協力をお願いする「職場代表幹事」の選任を進めています。既に下記20社の方にご協力を頂いており、ご検討をお願いします。

(大阪市、大阪市高速電気鉄道、大林組、奥村組、鹿島建設、関西電力、近鉄、栗本鐵工所、鴻池組、神戸市、五洋建設、大成建設、東亜建設工業、東洋建設、西日本高速道路、ニュージェック、三菱重工、和歌山県、IHIインフラシステムズ、JFEエンジニアリング)



**NEJEC**  
自然と人を技術で結ぶ  
Harmonizing People with Nature by Technology

交通・都市部門  
 ■都市施設・景観デザイン  
 ■上下水道  
 ■道路・橋梁  
 ■港湾・海岸  
 ■PPP PF1

基盤技術部門  
 ■地盤・地質  
 ■環境  
 ■電気通信  
 ■耐震診断・評価

建築部門 (一級建築士事務所)  
 国際部門

河川部門  
 ■ダム・河川・砂防

株式会社 **ニュージェック**  
我々は関西最大の総合建設コンサルタントです

大阪本社 大阪市北区本庄東2-3-20 Tel.06-6374-4901  
 東京本社 東京都江東区亀戸1-5-7 Tel.03-5628-7201  
<https://www.newjec.co.jp>



**Technology & Design Company Plantec**

五島市グリーンセンター(長崎県)

焼却プラントを、美しく。廃棄物を、エネルギーに。

株式会社 **プランテック**

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目6番17号 TEL:06-6448-2200(代表)

〈採用情報〉 <https://www.plantec-kk.co.jp/recruit/>



●支部の結成

現在、支部は東京支部しかありませんが、他の地域でも支部を作ってはみませんか？

支部活動費として、当該地区会員の前年度納入額の 20%を補助します。詳しくは事務局までお問い合わせください。

●都市会女性の会

令和 2 年度に都市会女性の会が発足しました。今、建設業界ではより一層の女性の活躍が期待されています。活動への積極的なご参加、ご提案をお待ちしています。

女性の会

HP <https://ocurbanjosei-web-3.jimdosite.com>

メール [ocurbanalumnijosei@gmail.com](mailto:ocurbanalumnijosei@gmail.com)



会報への広告掲載の御礼

会員の所属機関の広告を、会報に掲載させていただいております、広告収入は会報の発行に大変大きな支援となっております。本紙面をお借りしてお礼申し上げます。(なお、掲載はアイウエオ順とさせていただきます)

ホームページへの会員活動情報掲載

会員の活動が雑誌や新聞等に掲載された場合は、事務局に連絡をお願いします。活動の様子を HP にアップしています。最近では、大井健一郎様(昭和 53 年卒)瑞宝双光章授章、廣瀬彰則氏 (S54 卒 土木学会誌 2021/6)、阿久井康平氏 (H19 卒 土木学会誌 2021/6)、山口教授 (日経コンストラクション 2021/01/25)、嘉名教授 (日経新聞 2021/3/4) 掲載記事を UP !



企画・ご意見の募集

会員相互の研鑽と親睦を図るための企画やご意見を下さい。会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へご連絡くださるようお願い申し上げます。

R2/5-R3/5 ご逝去された会員

お名前	卒業年	御逝去年月
・三笠 正人 様 (旧教員)		2020/6
・井上 順三 様 (S36 卒)		2020/8
・橋本 裕彰 様 (S54 卒)		2020/8
・玉井 義弘 様 (S32 卒旧土木会会長)		2020/9
・内田 秀男 様 (S23 卒)		2020/10
・下村 幸男 様 (修士 S49)		2020/11
・瀧華 正 様 (S25 卒)		2021/4

編集後記

新型コロナウイルスにより、昨年度の都市会イベントは講演会を除き中止となり、会員相互の交流ができないという残念な 1 年でした。早期にコロナを克服し従前の交流ができるようになることを御祈念申し上げます。

・「特別企画」「連載企画」へのご寄稿いただける方が少なくなっています。次号は昭和 36 年(卒後 60 年)、昭和 46 年(卒後 50 年)、昭和 56 年(卒後 40 年)、平成 3 年(卒後 30 年)、平成 13 年(卒後 20 年)、平成 23(卒後 10 年) 卒業の方々です。同期会の開催や昔話などを寄稿ください。評議員 (学年幹事) の方よろしくお願い致します。

事務局の連絡先

メールアドレス、  
[ocurbanalumni@gmail.com](mailto:ocurbanalumni@gmail.com)  
電話・ファックス  
**06-6696-2965**

ホームページ

<http://OCU-toshi.com>

(HP の検索が「都市会」で検索しにくい場合 [ocu-toshi.com](http://ocu-toshi.com) と入力して下さい)